

## 【小学校 国語】

## 結果分析

※ 平均正答率は全て公立学校の値  
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

## 【平均正答率（％）】

| 大都市 | 全国 | 仙台市 | 全国との差 |
|-----|----|-----|-------|
| 66  | 65 | 65  | ±0    |

## 【学習指導要領の内容の平均正答率（％）】

| 分類           | 区分                  | 全国   | 仙台市  | 差    |
|--------------|---------------------|------|------|------|
| 知識及び技能       | (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 68.3 | 69.8 | +1.5 |
|              | (2) 情報の扱い方に関する事項    | -    | -    | -    |
|              | (3) 我が国の言語文化に関する事項  | -    | -    | -    |
| 思考力、判断力、表現力等 | A 話すこと・聞くこと         | 77.8 | 78.0 | +0.2 |
|              | B 書くこと              | 60.7 | 56.7 | -4.0 |
|              | C 読むこと              | 47.2 | 47.5 | +0.3 |

## 【観点別・問題形式別 平均正答率（％）】

| 分類    | 区分       | 全国   | 仙台市  | 差    |
|-------|----------|------|------|------|
| 評価の観点 | 知識・技能    | 68.3 | 69.8 | +1.5 |
|       | 思考・判断・表現 | 62.1 | 61.2 | -0.9 |
| 問題形式  | 選択式      | 71.7 | 72.4 | +0.7 |
|       | 短答式      | 70.6 | 70.6 | ±0.0 |
|       | 記述式      | 40.2 | 39.3 | -0.9 |
| 無解答   |          | 4.3  | 4.9  | +0.6 |

（成果：○，課題：●，問題番号：【 】）

- ① 【1 三】 目的や意図に応じ、資料を使って話すことができるかどうかをみる問題の正答率は、81.6%と全国を0.6ポイント上回っている。
- ② 【2 二】 思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことができるかどうかをみる問題の正答率は87.7%と全国を0.2ポイント上回っている。
- ③ 【3三（2）オ】 文の中における修飾と被修飾との関係を捉える問題の正答率は51.4%で、全国を7.8ポイント上回っている。
- ④ 【2 三】 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける問題の正答率は34.3%で、全国を0.1ポイント下回っている。
- ⑤ 【2 四】 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかをみる問題の正答率は30.6%と全国より1.3ポイント高いものの、無解答率は6.8%と全国より0.2ポイント高い数値になっている。
- ⑥ 【3 一】 自分の主張が明確に伝わるように文章全体の構成や展開を考える問題の正答率は60.4%で、全国を4.4ポイント下回っている。
- ⑦ 【3 二】 目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題の正答率は、53.0%で、全国を3.6ポイント下回っている。
- ⑧ 【3 三（ウ）】 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う（「つみ重ね」）問題の無解答率が20.0%と高く、全国より5.6ポイント上回っている。

## 指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 必要な情報は目的に応じて変わるため、読む目的を明確にする。
- ② 内容の中心となる語や文をなど必要な情報を見付けて要約させる。
- ③ 「始め—中—終わり」、 「序論—本論—結論」や頭括型、尾括型、双括型などの、文章の組立や説明等における論の進め方について、文章の各部分だけを取り上げるのではなく、全体を通してどのように構成されているのかを正確に捉えさせる。
- ④ 事実を客観的に書かせるとともに、その事実と感想や意見との関係を十分捉えて書けるようにする。
- ⑤ 漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにさせる。

# 【中学校 国語】

## 結果分析

※ 平均正答率は全て公立学校の値  
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

### 【平均正答率(%)】

| 大都市 | 全国 | 仙台市 | 全国との差 |
|-----|----|-----|-------|
| 65  | 65 | 68  | +3    |

### 【観点別・問題形式別 平均正答率(%)】

| 分類    | 区分              | 全国   | 仙台市  | 差    |
|-------|-----------------|------|------|------|
| 評価の観点 | 国語への関心・意欲・態度    | 56.0 | 60.0 | +4.0 |
|       | 話す・聞く能力         | 79.8 | 83.1 | +3.3 |
|       | 書く能力            | 57.1 | 60.9 | +3.8 |
|       | 読む能力            | 48.5 | 51.9 | +3.4 |
|       | 言語についての知識・理解・技能 | 75.1 | 77.1 | +2.0 |
| 問題形式  | 選択式             | 63.9 | 67.0 | +3.1 |
|       | 短答式             | 74.4 | 76.6 | +2.2 |
|       | 記述式             | 56.0 | 60.0 | +4.0 |
| 無解答率  |                 | 4.4  | 3.9  | -0.5 |

### 【学習指導要領の領域等の平均正答率(%)】

| 区分                   | 全国   | 仙台市  | 差    |
|----------------------|------|------|------|
| 話すこと・聞くこと            | 79.8 | 83.1 | +3.3 |
| 書くこと                 | 57.1 | 60.9 | +3.8 |
| 読むこと                 | 48.5 | 51.9 | +3.4 |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 75.1 | 77.1 | +2.0 |

(成果：○, 課題：●, 問題番号【 】)

- ① 【1 二】 話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する問題の正答率は94.0%と高く、全国を1.5ポイント上回っている。
- ② 【1 三】 参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く問題の正答率は62.9%であるが、全国を5.8ポイント上回っている。
- ③ 【4 四】 事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く問題の正答率は77.5%で、全国を5.6ポイント上回っている。
- ① 【2 一】 意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する問題の正答率は、全国を2.4ポイント上回っているが、27.2%と低くなっている。
- ② 【3 四】 「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く問題の正答率は21.5%で、今回の調査結果で最も低く、無解答率も23.1%で最も高い。

## 指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 話し合いをする際には、必要に応じて質問しながら聞き取らせるとともに、自分の考えとの共通点や相違点を整理させることが大切である。その際、司会と参加者の役割を意識させ、話し合いが目的に沿って進むよう、進み具合を客観的に把握させたり、今後の展開について考えさせたりすることが必要になる。
- ② 聞き手には、相手の発言を注意して聞いて相手の意図を確認させたり、不明な点を質問させたりする。その際、場の状況に応じて、質問の適切な機会を捉えさせることが重要である。
- ③ 相手に失礼のないように文章を書くには、相手や場に応じた言葉遣いになっているかを検討し、伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くとともに、相手への敬意についても考えさせることが大切である。
- ① 自分の考えや思いを分かりやすく伝えるために、書いた文章を客観的に捉え直し、より効果的な表現について粘り強く考えさせる指導が必要である。意見の根拠となる具体例の内容や示し方、文末表現の区別など、推敲の意図を検討させることが大切である。
- ② 文章に表れているものの見方や考え方を正しく捉えていない、あるいは捉えていても、それに対する自分の考えをもてないことが、課題として挙げられる。文脈の中における語句の意味を理解したり、場面の展開や登場人物の描写に注意して読んだり、それらを根拠として自分の考えを具体的にもてるようにすることが大切である。また、他者の考えと比べさせたり、日常の読書活動と結び付けさせたりしながら、自分の考えをもたせる指導を積み重ねることで、改善につながると考えられる。

# 【小学校 算数】

## 結果分析

※ 平均正答率は全て公立学校の値  
 ※ 「大都市」とは指定都市と東京23区

### 【平均正答率（％）】

| 大都市 | 全国 | 仙台市 | 全国との差 |
|-----|----|-----|-------|
| 72  | 70 | 70  | ±0    |

### 【学習指導要領の領域の平均正答率（％）】

| 区分       | 全国   | 仙台市  | 差    |
|----------|------|------|------|
| A 数と計算   | 63.1 | 61.3 | -1.8 |
| B 図形     | 57.9 | 58.0 | +0.1 |
| C 測定     | 74.8 | 74.9 | +0.1 |
| C 変化と関係  | 75.9 | 75.9 | ±0.0 |
| D データの活用 | 76.0 | 77.5 | +1.5 |

### 【観点別・問題形式別 平均正答率（％）】

| 分類   | 区分       | 全国   | 仙台市  | 差    |
|------|----------|------|------|------|
| 観評価の | 知識・技能    | 74.1 | 74.3 | +0.2 |
|      | 思考・判断・表現 | 65.1 | 65.1 | ±0.0 |
| 問題形式 | 選択式      | 76.0 | 76.7 | +0.7 |
|      | 短答式      | 75.8 | 75.3 | -0.5 |
|      | 記述式      | 53.0 | 53.1 | +0.1 |
| 無解答率 |          | 2.6  | 3.1  | +0.5 |

（成果：○，課題：●，問題番号：【 】）

- ① 【3】(4) 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する問題の正答率は56.7%で、全国を4.7ポイント上回っている。
- ② 【3】(3) 目的に応じて集められたデータを二次元の表に分類し整理する問題の正答率は70.3%で、全国を2.8ポイント上回っている。
- ① 【4】(3) 小数を用いた倍の意味についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述する問題の正答率は47.3%で、全国を4.2ポイント下回っている。また無解答率も13.7%と高い。
- ② 【2】(1) 三角形の面積を求める式と答えを書く問題の正答率は、53.4%で、約半数の児童が不正解で全国を1.7ポイント下回っている。
- ③ 【4】(2) 数量関係を捉えて除法の式に表し、商が1より小さくなる計算をする問題の正答率は、54.0%と、全国を1.5ポイント下回っている。
- ④ 無解答率が全16問中10問で全国を上回り、他の6問は同等であった。特に求め方や理由を記述する問題では無解答率が高い。求め方や考え方を記述という形で表現することに課題があると考えられる。

## 指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 「12mは30mの何倍か」のような小数倍になる問題の指導に当たっては、「基準量を1としたときに比較量がいくつ分に当たるか」をテープ図などに表し、数量の関係を捉えさせていくことが大切である。30mを1とみたとき、12mは $12 \div 30$ で求められた0.4にあたり、 $30 \times 0.4 = 12$ となることから、30mの0.4倍は12mであることを確実に捉えさせていきたい。
- ② 平面図形の求積の指導に当たっては、公式を導き出し、その式に数値を当てはめて面積を求めていく過程だけではなく、底辺や高さの位置を判断するなど、必要な情報を選び出し面積を求めることができるようにすることが大切である。
- ③  $4 \div 8$ のような被除数より除数が大きくなるわり算の立式には、子供たちに抵抗が見られる。この場合、問題場面から「何を何人で等分するのか」数量の関係を図で表すなどし、しっかりと捉えさせることが重要である。また、 $4 \div 8 = 0.5$ の答えから1人分が0.5Lで8人分だと $0.5 \times 8$ で4Lになることを確認し、問題場面を振り返させることも大切である。
- ④ 普段の授業において自分で考える場面をしっかりと設定し、求め方や理由をノートに書かせるなど文や式で表現する経験を積み重ねていくことが重要である。また、表現の仕方についてもどのように表せば分かりやすいか学び合う活動を通して指導していくことが大切である。

# 【中学校 数学】

※ 平均正答率は全て公立学校の値  
 ※ 「大都市」とは指定都市と東京23区

## 結果分析

【平均正答率 (%)】

| 大都市 | 全国 | 仙台市 | 全国との差 |
|-----|----|-----|-------|
| 58  | 57 | 60  | +3    |

【観点別・問題形式別 平均正答率 (%)】

| 分類    | 区分                | 全国   | 仙台市  | 差    |
|-------|-------------------|------|------|------|
| 評価の観点 | 数学への関心・意欲・態度      | -    | -    | -    |
|       | 数学的な見方や考え方        | 41.1 | 44.3 | +3.2 |
|       | 数学的な技能            | 77.7 | 78.3 | +0.6 |
|       | 数量や図形などについての知識・理解 | 65.6 | 68.7 | +3.1 |
| 問題形式  | 選択式               | 52.4 | 55.4 | +3.0 |
|       | 短答式               | 70.5 | 72.9 | +2.4 |
|       | 記述式               | 35.0 | 38.1 | +3.1 |
| 無解答率  |                   | 11.2 | 11.0 | -0.2 |

【学習指導要領の領域の平均正答率 (%)】

| 区分    | 全国   | 仙台市  | 差    |
|-------|------|------|------|
| 数と式   | 64.9 | 67.5 | +2.6 |
| 図形    | 51.4 | 56.3 | +4.9 |
| 関数    | 56.4 | 58.5 | +2.1 |
| 資料の活用 | 53.8 | 54.8 | +1.0 |

(成果：○, 課題：●, 問題番号【 】)

- ① 【9】(1) 平行四辺形になるための条件を用いて、四角形ABCEが平行四辺形になることを説明する問題の正答率は51.7%で、全国を7.4ポイント上回っている。
- ② 【9】(2) 錯角が等しくなることについて、根拠となる直線FEと直線BCの関係を記号で表す問題の正答率は69.4%で、全国を5.1ポイント上回っている。
- ① 【5】反復横とびの記録から中央値を求める問題の正答率は82.2%で、全国を2.3ポイント下回っている。
- ② 【8】(3) 2つの度数分布多角形の特徴を比較して、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題の正答率は10.9%と低く、全国を0.2ポイント下回っている。また、無解答率は全国よりも1.9ポイント高い34.1%である。

## 指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ①② 図形の性質を考察する場面では、予想した事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えることや、条件を保ったまま図形を移動させても成り立つ事柄を見いだすことが大切である。この力を身に付けさせる取組として、授業において、合同な図形の性質や平行線の性質、平行四辺形になるための条件等の理解を深めるようにしていく。そのためには、図形について考察する場面において、問題文をしっかりと読み取り、既習の図形の性質等を用いて、ある事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明させる指導が必要とされる。
- ① データに基づいて考察する場面では、データの傾向を読み取り、問題で問われている事柄について判断するために、その目的に応じて代表値(平均値・中央値・最頻値)を求めることが大切である。本設問を使って授業を行う際には、データの分布の傾向を捉えるため、中央値を求める必要があり、代表値の意味とその求め方を確認し考察させることが重要である。
- ② ある事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて筋道立てて説明する際には、説明の対象となる事柄を明確にした上で、その根拠を明らかにすることが大切である。日頃から、ある事柄が成り立つ理由を生徒に説明させる際には、「・・・であるから、○○である」のような形で、説明すべき事柄について、その根拠と成り立つ事柄の両方を示すように指導する必要がある。